

POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」
第 6 2 号 2007. 9. 10

発行
北海道ポーランド文化協会
〒011-0029
札幌市北区北29条西12丁目2
-16
佐光伸一
電話・FAX 011-727-1520

もうひとつのポーランド史

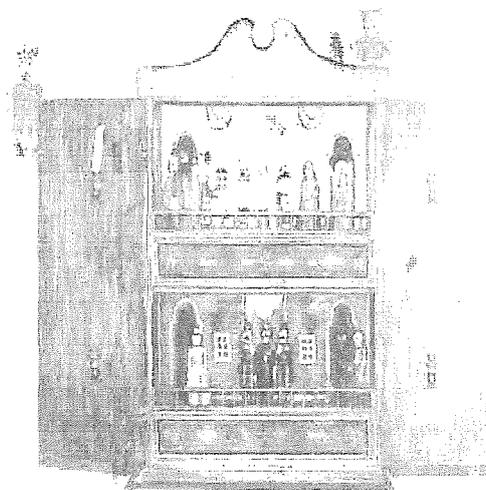
ベラルーシの歴史と伝説

越野剛

日本人にはあまり馴染みのないベラルーシという東欧の小さな国に私は住んでいたことがある。ポーランドとロシアの狭間といえほどの辺りにある国か分かって頂けるだろうか。そこで専門調査員という日本大使館のお雇い仕事を二年ほど勤めた。ベラルーシとの外交関係は浅く、あまり日本からのお客さんも来ることはない。のんびりした日々をすごしていたものだ。あるとき日本のテレビ局から連絡があつて何かと思つたら、ベラルーシには美人が多いといわれるが学問的根拠はあるかという質問だったりした。のんきな話である。春になるとよく電話をかけてくるベラルーシ人もいて、世紀の大発明をしたから日本のテク

ノロジーでぜひ実用化してほしいという。まったくのんきな話である。

こんなことを書くとき国民の税金から給料をもらっているが何をやっていのかと怒られそうだが、もちろん日々の仕事はきちんとこなしていたつもりである。ただしモスクワとかワルシャワの日本大使館のように神経をすり減らすような忙しさはなかった。そんな私のひそかな楽しみのひとつは、日曜日の朝にベッドの中でぼんやりしながら教



会の鐘の音を聴くことだった。よく聴くと鐘の響きには二種類ある。澄んだような余韻を残しながら単調に響くのがカトリック教会、大小の鐘を複雑な音色で鳴り響かせるのがロシア正教会である。自分がまさしくポーランドとロシアの狭間の空間にいるのだなということを実感する、夢うつつのひとつの時である。

ベラルーシ・リトアニア・ウクライナの三民族は、ロシアとポーランドの二国がその領土をめぐって取ったり取られたりを繰り返してきた歴史を持つている。ポーランドというと大国に運命を翻弄され続けた受難の民族というイメージがあるが、近代以前は東欧随一の強国だったこともあるのだ。ポーランドとロシアという二つの異文化がベラルーシに残した影響はいろいろなところに見ることができ。例えばカトリック教徒の

クリスマスは十二月二十五日だが、ロシア正教徒にとって一月七日である。カトリックと正教会が共存するベラルーシでは自然とクリスマスも二回も祝うことになる。

ベラルーシの文化はソ連時代にロシアから強く影響を受けたが、独立してからはロシアと違う独自性があるということが強く言われるようになった。しかしそういうベラルーシ的とされる物も、よく調べてみると今度はポーランドが起源だということも多い。例えばベラルーシでは民族文化復興を願う人たちの間で、「バトレイカ」というクリスマスに演じられる人形劇がちよつとしたブームになっている。これは二階建ての家を模した移動式の箱舞台の中で、聖書のキリスト降誕の場面を演じるものだ。上の階は天界を表しており、天使の人

形が登場して「聖なる御子が世に生まれた」と厳かに告げたりする。下の階は人間の世界になっており、悪役のヘロデ王が生まれたばかりのキリストを探して殺そうと企む。

一階部分のシナリオには自由な演出が許されていて、私が見せてもらったバトレイカ劇では、ベラルーシのルカシエンコ大統領そっくりの顔をした人形がヘロデ王を演じていて、独裁的な大統領令を乱発して民衆を苦しめていた。ロシア語とベラルーシ語が混ぜたような田舎っぽい喋り口までもがルカシエンコ大統領にそっくりで、最後の場面でヘロデ王が死神の鎌で首をちよん切られると、見ていた子供たちがいっせいに歓声を上げた。

ベラルーシ人がオリジナルな文化遺産として誇るバトレイカだが、これも実はポーランドの「シヨプカ」が伝わってきたものだ（さらに元をたどると人形劇の盛んなチェコから来たものらしい）。バトレイカと同じように建物状の舞台上でキリスト降誕の場面が演じられるもので、クラクフではヴァヴェル城や聖マリア教会を模したシヨプカがよく知られている。ポーランドのシヨプカは人形劇として演じられるというだけではなく、日本の雛壇のような飾り物としても重宝されている。

ベラルーシの古い歴史を見るとポーランドとのつながりはもつとはつきりと見えてくる。ポーランドの独立を守るために戦ったタデウシュ・コシチュシユコやポーランドの大詩人アダム・ミツケヴィチは今日のベラルーシで生まれている。ベラルーシの歴史教科書ではコシチュシユコもミツケヴィチも民族の偉人として紹介されているのだ。この連載ではポーランドがリトアニアやベラルーシとひとつながりの連合国家として栄えていた時代（一五から一八世紀）を取り上げて様々なエピソードを紹介したい。ラジヴィル家という大貴族（マグナート）の一門が話の中心となる。彼らはベラルーシとリトアニアに広大な領地を所有しており、もしもベラルーシが独立の王国になる機会があったならラジヴィル王朝ができただろうとさえ言われている。ぞつとするような復讐譚、ロマンチックな恋物語、こつけない面白い話など、ラジヴィル家には興味深い逸話や伝説がたくさんあるのでどうぞご期待ください。

ポーランドの道産子 第5回
エディータ・ジェプカ

ミコワイは私たちにとって
はじめての子供だったので、
私たちには子供を育てること
の経験が欠けていました。こ
のことを私たちは子育ての本
やインターネットから学び、
自分たちの両親からもいろ
ろ教わりました。でもこのこ
とは読んだり教えてもらった
ことから自分たちが子育てに
上達したとは思いません。一
番大事なものは親としての本能
だということに気づきました。

ポーランドと日本の「子育て」
の方法にはお互い異なる
ことがよくあります。でもそ
のどちらも否定することなく
自分の息子のために最もよい
方法を本能的に選択するよう
に心がけています。例えば、
ポーランドでは生後一週間で

もう赤ん坊を外に連れ出しま
すが、日本では子供に免疫力
が付き産後の若い母親の体力
が回復するまで一ヶ月の間待
つことがよいとされています。
ポーランドでは赤ん坊の
耳を守るために頭に帽子をか
ぶせることに気を配ります。
日本では冬でも頭がむき出し
の子供をよく見かけます。服
装ひとつをとってみても日本
とポーランドでは違います。

ポーランドの母親は子供を出
来るだけ暖かくしようとしま
すが、日本では出来るだけ軽
くしようとします。日本では
一年中はだしの子供をよく見
かけます。ポーランドの赤ん
坊は生まれてすぐに子供用の
ベッドでひとり寝ることが
習慣づけられます。ひとり寝
寝つきベッドでひとり寝過ご
す子供は、両親の自慢のもと
です。日本では子供は両親と

寝ます。ミコワイはと言う
と、自分のベッドを持ってい
ますが私たちと一緒に寝てい
ます。私の友達にポーラン
ドでは赤ん坊がひとりで寝て
いるといった時の、「ひどく
くい！」という彼女たちの反
応を今でもよく覚えていま
す。

またミコワイがこんなによ
くぐずり泣き虫なのは歯が生
えはじめ、それがとても痛い
だからだと私が言った時、知
り合いは驚いた顔をして私を
見たものでした。生えはじめ
の歯の話をした時には、小
児科医の先生までが「それが
痛むというんですか？」と驚
いたように聞き返しました。
日本の子供はそれが痛くない
んだと、逆に私たちがビツク
リして考え込んでしまいました。
というのも歯が生えはじめ
めるとそれは子供に痛みを与
え、だから子供はよく泣いた



り、時には熱を出すこともあ
ると、ポーランドでは考えら
れているからです。ポーラン
ドの薬局ではこの痛みを和ら
げるために子供の歯茎に塗る
ための特別の塗り薬まで販売
されているくらいです。

子供の歳の節目に関する伝
統も日本とポーランドでは異
なっています。日本では子供
が生まれてから百日目に神社
を訪れ記念写真を撮ります。
ポーランドではそれに相当す
るのが子供の洗礼ですが、そ
れは正確に生後百日目ではあ
りません。子供の最初の離乳
食は日本ではちよつとした事
件で赤ん坊は小さなスプーン
やフォークなどのプレゼント
を手に入れます。ポーランド
の家庭ではそのような小さな
事件は最初の歯が生えた時で
す。でもポーランドの子供は
プレゼントはもらいません。
ただ両親がそれを見るだけで

す。その代わり子供の一歳の
誕生日は、家族中が集まる大
事件です。たくさんのプレゼ
ントをもらいケーキの最初の
ローソクを消すだけでなく、
子供は将来何になるかを占わ
れます。子供の前にさまさま
な物が並べられます。例えば
本に手を伸ばせば将来は学
者、硬貨なら金持ちという具
合です。ミコワイは最初の誕
生日を、ちようど同じ日に生
まれた「なつみ」ちゃんとい
緒に祝いました。私たちの日
本人の友達はこの占いにとて
も興味を持ち、子供の前にい
ろいろな物を並べました。ミ
コワイはすぐに体温計に手を
伸ばしました。将来は多分お
医者さんになると私たちは考
えました。みんな興味を持つ
て「なつみ」を見てみると、
彼女はなんとウォッカのグラ
スを手に取りました！彼女
の将来が酒飲みになると予言
したポーランドの占いを彼女

の両親が気に入ったかどうか
気になるところです。

編集部よりのお知らせ。
皆さんも「ポーレ」に原稿を投
稿してみませんか？「ポーレ」
ではポーランドに関する皆さんの
原稿をいつでも大歓迎です。ポー
ランドに旅行した際の体験、ポー
ランド人との出会い、ポーランド
に関するさまざまな蘊蓄などをぜ
ひお聞かせ下さい。詳細は事務局
までお問い合わせ下さい。

会費の納入はお済みですか？

2007年度（2006年10月～2007年9月分）

当会は、皆様からの年会費によって運営されています。
上記の年度分の会費の納入を宜しくお願いいたします。

「ポーレ」編集委員会 越野剛・小林美保・佐光
伸一・鳴神雅史・ラファウ・ジェプカ
(事務局)
〒001-0029 札幌市北区北29条西12丁目2-16
コーポラス阿部7号 Tel/Fax 011-727-1520 e-
mail: ssamitsu@hotmail.com

《郵便振替口座》

02740 - 5 - 19735

北海道ポーランド文化協会

普通会員(年額) 3,000円

維持会員(年額1口) 5,000円

学生会員(年額) 1,500円

《会費振込銀行口座》

北洋銀行 大通支店

(普) 301-0605084

北海道ポーランド文化協会

事務局長佐光伸一

北海道ポーランド文化協会会誌

POLE 第 62 号 (2007 年 9 月)

目 次

越野剛「もうひとつのポーランド史～ベラルーシの歴史と伝説（1）」……………	1
エディータ・ジェブカ「ポーランドの道産子（5）」……………	3